

多久孔子の里獅子舞

▶北部小体育館で、みんなで楽しく練習しています。団員も募集中。年齢は問いません。



福を招いて災いをはらう

みんなに元気と笑顔をお届けます！

『孔子の里獅子舞』は、平成5年に発足。ドラや太鼓の勇壮な響きに合わせた大獅子の躍動感あふれる踊り、そして軽妙なタッチでユーモラスに動き回る小獅子を多久聖廟釈菜や多久まつりで見られたことがあると思います。

団員は現在小学4年生から中・高校生・大人まで総勢23人。毎週木曜日夜8時から9時30分まで北部小体育館で練習に励んでいます。ドラや太鼓の楽器や小獅子など、パートごとに分かれて練習を行い、小獅子は高校生が小・中学生にコミカルな演技を指導しています。小学6年生の廣川大輝さんは「友達に誘われて見学し楽しかったので入った。みんなに喜んでもらって嬉しい」と小獅子の演技に頑張っています。

福祉施設への訪問や祭りなどのイベントで「招福驅邪」の踊りを届けています。そのなかで子どもたちから「自分たちができる東日本大震災復興支援はないだろうか？獅子舞をして元気づけたい」との思いが生まれ、8月17日から22日まで宮城県の避難所や保育所を回り、被災された方に元気と笑顔をお届けしてきました。

問 代表 川原田知章 ☎090-2963-5426

●連載5● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

郷土の作家 滝口康彦

さまざまな因習に縛られた武家社会において苛酷な運命に翻弄される人々を描いた作家、滝口康彦。滝口さんは大正13年に佐世保で生まれ、その後多久で暮らし、たびたび地元に残る歴史を小説にしました。『葉隠』を題材にとった『その心知らず』、多久初代領主多久安順を描いた長編『落日の鷹』、多久聖廟創建にまつわる物語『主殿助騒動』などがあります。また、佐賀の歴史のガイドブック『佐賀歴史散歩 葉隠のふるさと』には滝口さんが小説に描いた佐賀の歴史がいきいきと語られています。

滝口さんは当時西溪公園内にあった多久市立図書館に足しげく通い、古文書をめくって題材を探していました。滝口さんの作品を通して、多久の歴史にふれてみませんか？



◀郷土資料館の滝口康彦展示コーナー。滝口さんご家族が所蔵されている直筆の原稿や愛用の万年筆などを展示しています。10月公開の映画『一命』（原作は『異聞浪人記』）を見た後はぜひこちらもご覧ください。

『多久市郷土資料館』

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日

(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

兄弟とひなびしりの旅にして
恥も笑ひに癒やされ過ぐる
田淵ミチ子
丹精の枇杷箱詰めで届きたり
おもいの深さに喰うるみぬ
迎 寿代
そそくさと嫁帰り来て賄いす
四世代住む苦勞もあろうに
福島那智子
ホットスポットなんて言わずに
日本語で拡がる放射線汚染区域
内田 龍子
歩行器を使えば足の調子よく
梅雨の晴れ間を 揚羽蝶飛ぶ
川浪 信子

俳句

《あざみ句会 互選》

溪谷の水の流れに糸とんぼ
いちにちを使い切ったる 髪洗ふ
千々岩弘幸
草刈りし庭に新たな風生れる
大石ひろ女
初盆や笑の遺影に語りかけ
中嶋 清子
書を閉じて風鈴に耳かたむける
田中久美子
川内スミ子

川柳

《多久市川柳会 互選》

役ひとつ終えてゆっくり茶をすする
田代まつこ
隣人と円満に住むおすそ分け
猪ノ口昭子
夫婦ゲンカ犬を味方に引き入れる
松下 修
極上のウワサ話に耳が立つ
大谷 和
万歩計主の調子知っている
西山 残月